

# 教養ニュース

令和6年3月10日 発行  
託麻東小学校教育友会  
教育友会会長 中釜裕二  
教養委員長 栗林美佳

## 2月10日（土）東町中学校体育館にて東区PTA 連絡会研修会が開かれました。

第1部は「不登校のお子様を持つご家族に伝えたいこと」と題して、くまもと心理カウンセリングセンター臨床心理士の江崎百美子様が講演されました。不登校になる子どもの気持ちをスライドの資料を使い一つ一つ説明されました。また年齢に伴い子どもに対する親の接し方も変わっていく必要があると話されました。

- \* 8歳頃→物事に対して親子で取り組む
- \* 14歳頃（中2病）親から言われても聞き入れるゆとりがない→見守り、時に声をかける事で自分で何でもやれるようになってくる
- \* 17歳頃（将来の事で不安になってくる）→失敗しても大丈夫、自分で決めさせることが大事

子どもはいろいろな経験を経て自分を育てる事が出来るようになる、「こうしなさい、これはしたらダメ。」ばかり言っていると子どもが自立出来なくなるとのことでした。自分で考え、決め、進んでいくことで“やったという達成感”が生まれ、自己肯定感があがるとの事でした。子どもがある程度大きくなってきたら、**推し活（子供を応援）する**くらいの気持ちで接していくとよいとの話で、私も当てはまる部分が多くあり、反省させられました。心配だけでもやらせてみる、子どもには乗り越える力を持っている、その子どもの力を信じて子どものよいサポーターになっていければいいですねと最後まで優しい口調でお話になりました。

第2部では「ヤングケアラーの歩き方 周りの大人に出来る事」と題して母子支援活動家であり助産師の資格もお持ちの大庭美代子様が講演されました。ご自身がヤングケアラーであり、幼少期は大変貧困であったエピソードを話されました。しかし小学校での温かい恩師に恵まれ、小学校は大庭様にとって救いだったそうです。その後も貧困は続きますが、運命の方と出会い、大学まで行き教師の夢を持ちます。しかし教師にはならず会社員として働き、その後結婚・出産、産後うつを経験し、その時に助けてくれた助産師さんに感銘を受けられ大学を受けなおし、助産師の国家資格を取られ40歳で助産師になりました。

私には想像できないほど、壮絶な人生を送られてこられた大庭様ですが、ヤングケアラーは「私がこの家からいなくなってしまうらどうなるんだろう」と思ってしまい、自分の夢を諦めてしまう人が多いそうです。しかし受援力（助けてと言える力）を持ち、たった一人でもいいので人生を変える出会いがあればいいと考え、夢が出来る事で生きる希望になり、たとえ夢が叶わなくても夢を持った事でいるんな人との出会いがあったと思われたそうです。

### “すべての人に幸せになる権利がある”

「子どもに夢を持ちなさい」と言うなら、自分が夢も希望も諦めない姿勢を子どもにみせてあげてほしいと話された大庭様の言葉に感銘を受け、私も自分の背中を子どもたちに見せられる大人になりたいと強く思いました。とても貴重な時間を過ごすことができました。



開催された東町中学校体育館



子ども達の不登校について講演をされる江崎百美子様



ヤングケアラーについて講演をされる大庭美代子様

今回お忙しい中ご参加くださいました保護者の皆様、誠にありがとうございました。